



2019年6月17日

サブサハラ・アフリカ地域の債務拡大

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 研究員 竹山 淑乃

近年、アフリカ諸国の債務は拡大するとともに、その構造も変化してきている。例えば、サブサハラ・アフリカ地域の国々（以下、サブサハラ諸国）の公的債務残高は2013年のGDP比31.6%から2018年には同49.1%となり、内訳をみても外貨建ての割合が60%近くまで拡大している（図表1）。

対外債務の貸出先の構成についても、多国籍機関やパリクラブからの援助資金の割合が縮小している一方、中国をはじめとするパリクラブ以外の国々からの援助資金や民間からの借り入れの割合が大きく伸びている（図表2）。この背景には、サブサハラ諸国では、世界金融危機や2011年の欧州債務危機の影響を受けて、貸出余力が大幅に低下した欧州の政府や銀行からの資金調達が難しくなり、代わりに中国からの資金に頼るようになったことがある。

また、近年、サブサハラ諸国は国際市場において外貨建ての債券発行が増加している。これは、世界的な低金利が長期化するなか、投資家が高利回りの債券を求めて、アフリカをはじめとする新興国市場に投資をする動きが加速したと考えられる。世界金融危機以降、アンゴラ、コートジボワール、ガーナ、ケニア、ナイジェリア、セネガルを中心にサブサハラ・アフリカ地域の16カ国が国際市場においてユーロ債¹を発行しており、2018年にはその発行額が合計170億ドルに及んだ（図表3）。発行通貨の大半は米ドルであり、中には30年以上の長期の債券も発行されている。

サブサハラ諸国自身が国際金融市場から資金を直接調達できることで、各国が多額の資金をより自由に経済発展やインフラ開発に利用することができるようになる。また、海外の投資家がサブサハラ諸国の経済状況や政策に注目するため、同国のガバナンスも高まることも期待される。一方、国際金融市場からの資金調達は、米国をはじめとする先進国の金融政策等、世界経済の影響を受けやすい点には留意が必要である。米国の金利が上昇し、先進国から流入していた資金がサブサハラ諸国から流出すると、当該国の通貨は下落し、外貨建ての債務の返済負担が増大する。加えて、サブサハラ諸国が各国で債務管理を行うための行政機関や国際金融市場に精通した人材の育成について十分

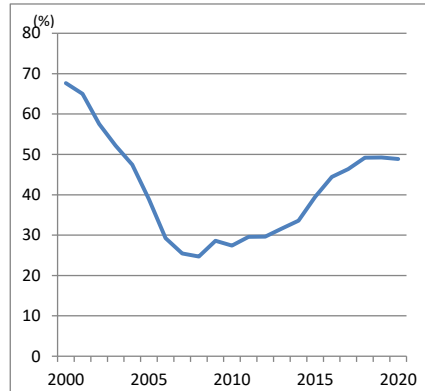
¹ 発行通貨の国内市場以外の市場で発行される債券。

な準備を行なっているとは言えない点も懸念される。

こうしたアフリカの債務問題については、来週の G20 サミットや 8 月に開催されるアフリカ開発会議 (TICAD) において、とりあげられる予定である。日本政府は、一施策として「債務のワナ」に陥った国々へ金融の専門家を派遣する方針であるが、債券市場の育成や国外で発行した債券管理の観点からも具体的な提案が示されるか注目される。

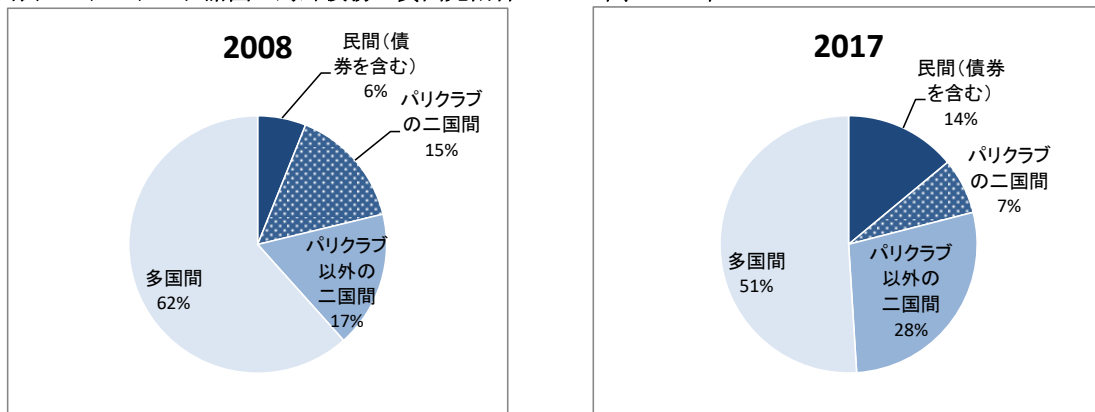
以上

図表 1 サブサハラ諸国 公的債務 GDP 比



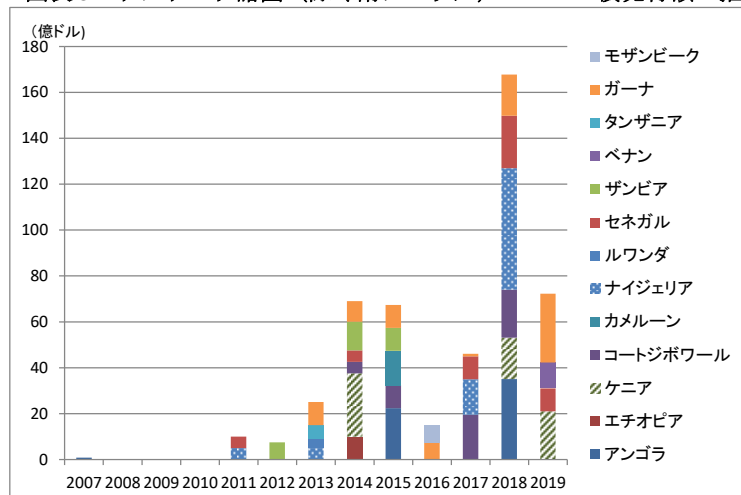
出典:IMF 注:2018年以降見込み

図表 2 サブサハラ諸国の対外債務 貸出先割合 2008年、2017年



出典:WB

図表 3 サブサハラ諸国 (除く南アフリカ) のユーロ債発行額の推移



出典:Bloomberg 注:2019年5月時点

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。